

平成28年度 学校自己評価表

(計画段階)

・ 実施段階)

91

福岡県立鞍手高等学校長

(全日制課程)

No.1

学校運営計画 (4月)		評価 (3月)		
学校運営方針	校訓「質実剛健 自学自習」、校是「たくまじき前進者たれ」のもと、社会の変化に主体的に対応し、心身ともに健康で、五常の徳目を自己の生活規範となし、自らの可能性に積極的に挑戦する気概と叡智に富み、地域はもとより国際社会に貢献する人間を育成する ○学問を愛し、意欲的に学ぶ ○身体を鍛えて、強い実践力を身につける ○力をあわせて、美しい学校をつくる			
昨年度の成果と課題	28年度重点目標	具体的目標		
キャリア教育の根幹ともいべき分団制の充実や教育相談機能の充実、生徒会活動の推進で、活発な学校づくりを構築することができている。本年度は、SSHが5年目を迎え、SGHは2年目に入る。双方の取組の充実・深化を図り、学習活動のレベルアップをめざす。アクティブラーニングを含む授業改善や生徒との信頼関係を一層重視する教育を実践し、地域に信頼される学校づくりを推進する。	学習指導をより一層充実し、確かな学力の育成を図る。また、進路指導の充実により、高い志を持ち意欲的に学ぶ生徒を育てる。	生徒の学力向上に向け、研究授業・授業公開等を積極的に実施する。アクティブラーニングを充実させ、学ぶ意欲やチャレンジ精神等の向上を図る。総合的な学習の時間の内容の充実、高大連携の活性化を図るなどキャリア教育を充実させ、志を高め、第一進路希望の実現を図る。国公立大学100名以上、九州大学等10名以上の合格をめざす。		
	生徒相互及び生徒と教師との人間的な触れ合いの中で、豊かな人間性を育み、自律心と思いやりの心を持つたくましい生徒を育てる。	各行事等の教育的意義や期待される成果等を教職員で共有し、生徒の積極的な参加を促し、教職員・生徒が一体となって一つひとつの行事を充実させる。分団制を推進し、上級生のリーダーシップを発揮させ、自主性や集団への帰属意識を高め、生徒の生きる力を育む。また、元気な挨拶を励行し、鞍高宣言の主旨を浸透させ、いじめの撲滅を推進する。		
	SSH及びSGH事業を学校全体で推進するとともに、大学や外部機関との連携を深め、課題研究等とおして、教育活動の更なる充実・深化を図る。	高大連携、研究機関・企業・地域との連携を積極的に推進し、SSH及びSGHの取組を充実・深化させ、生徒の主体的・自主的学習態度の涵養に資する。教科科目の学力向上のみならず課題研究においては困難な課題を設定し、グループで解決へ挑ませ、成果を認める「鍛ほめ福岡メソッド」を実践し、コミュニケーション能力・課題解決能力等の育成をめざす。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度への主な課題
教務領域	教育課程を改善する。	SSH・SGHの指定に伴い、探究的な学習を一層推進する教育課程を作成する。		
	教務規定を改善する。	アクティブ・ラーニングを主題とした課題研究等、新しい学びのスタイルに対応できるように教務規定を見直す。		
	授業改善を図る。	アクティブ・ラーニングを主題とした授業研修を実施する。生徒の主体的な学びにつながる授業アンケートを実施する。		
	欠席や欠課の多い生徒を早期に把握し、対応する。	欠課時数報告書を活用し、教科担当からクラス担任に迅速に生徒の状況が伝わるようにする。		
	地域の人々に本校の教育活動を周知する。	魅力的な中学生体験入学や中学生保護者対象の学校説明会、公開授業週間を実施する。ホームページの定期的な更新をする。		
	情報機器を活用した授業を推進する。	生徒用情報端末機器やプロジェクターを活用した授業を推進する。		
	個人情報適切に管理する。	成績や、生徒に関する情報を厳密に管理する。		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度への主な課題
生徒指導領域	教師のカウンセリングマインドに基づいて、生徒の元気で意欲的な学校生活を保障する。	教師が生徒一人一人に目を向け、生徒に自己肯定感を持たせ、自立の心を高めることができる生徒指導を推進する。 学校満足度調査において、学校満足度90%以上を継続する。		
	基本的な生活習慣の確立を図る。(時間厳守、挨拶、整理整頓)	生徒会や分団リーダーによるマナーアップ運動を展開する。(挨拶の励行)		
		全職員による生活指導、マナー指導を行う。(定期的に登下校指導等を行う。)		
	上級生のリーダーシップを生かし、生きる力を育む生徒指導を展開する。	75%以上の部活動加入率を継続する。		
		生徒主体の分団制による生徒会行事を通して共感的人間関係を育成する。		
	心身の健康を自己管理できる生徒を育成する。	教育相談委員会や学校医と連携して教育相談体制の充実を図る。		
		保健講話等による健康教育の充実やインフルエンザ等感染症の予防の徹底と迅速な対応を行う。		
	委員会活動を活性化し、美しい学校をつくる。	生徒への健康管理啓発活動を行いながら高等学校保健会での活動を積極的に行う。		
		全生徒・全職員による毎日の清掃活動による環境美化の充実を図る。		
	学校の教育活動全体を通して、様々な人権問題について理解を深め、実生活に活かせるように指導の充実を図る。	人権教育授業を充実させ、生徒に人権感覚を身につけることができるよう、指導の充実を図る。		
生徒間の交流や学級活動を通して、より良い人間関係を築くためのコミュニケーション能力を養成する。				
毎月いじめアンケートを実施し、問題に迅速に対応できるよう努める。				
生徒の実態を知り、素早い対応が取れるよう、アンケートや職員研修を充実させる。	校内職員研修会を実施し、職員間で情報を共有する場を設け、指導の充実を図る。			
進路指導領域	難関校を含む国公立大学100名以上の合格と生徒全員の進路実現を目標とする。	「上菅」を活用して、基本的な生活習慣を確立させる。		
		個人面談を頻繁に行い、学習面、学校生活面を両立できるよう促す。		
	生徒の実態を把握し生徒一人一人への指導を充実させる。	FineシステムやK-netを利用し、学習面の弱点等を認識させ、その克服へ向かうアドバイス等を行う。		
		日々変化する情報をキャッチしながら、大学等の入試内容を研究し、生徒の進路指導にあたる。		
	SSHやSGHでの取り組みと「総合的な学習の時間」を融合することによってキャリア教育を充実させ、早期に将来の目標設定を目指す。	SSHやSGH事業と連携しつつ、招聘授業やシンポジウム、大学訪問を通して、大学へ進学する意義や意欲を高揚させる。		
		冊子、インターネット等を使って、学部学科研究を深めさせる。 インターンシップを多く取り入れるよう努めたり、社会人シンポジウムを開くことで、職業観を育成する。		
効果的な課外授業や土曜セミナー、模擬試験を実施し、さらなる学力向上を図る。	課外授業や土曜セミナーを有効的に実施し、授業の補充を充実させる。			
	模擬試験の結果を分析し、生徒の進路志望や学習への取り組みを強化させる。 各学年とも1年間で国教英の3教科の学力到達度をB1(国公立大学合格レベル)以上になるよう、模試の結果を分析し、課外授業等を充実させる。			
庶務課	諸行事の円滑化・効率化を図るための事務的処理を行う。	学期ごとに庶務課会議を持ち、各学期に行う作業の分担・手順の確認を行うことで、無駄のない事務処理を行う。		
	PTAとの連携を密にし、各種委員会活動の充実を図る。	PTA役員会、理事会を通して、適宜情報を提供することで、学校の現状を理解していただき、よりよりPTA活動を行えるようにする。		
	文書・情報の整理、保管並びにその改善を図る。	常に閲覧・利用が可能な職員会議事録、運営委員会議事録を作成し、前年度と比較、参照できるようにする。		
	職員室の整備等、職場環境の充実をはかり、職員の福利・厚生に努める。	職員室・更衣室・下足ロッカー等の整備を行い、整った状態を保つことで、気持ちよく仕事ができるようにする。		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度への主な課題
理数科	理数科の独自性の確立及び学年・教科・各分掌との連携の強化を図る。	理数科委員会を活性化する。特にSSH課との連絡を密にし、理数科独自の行事の充実を図る。 LHRや、課題研究を十分に活用して、将来の研究者や技術者としてのキャリア教育を行う。 2年生東京・つくば研修、1年生福岡研修の実施方法を再検討し充実をはかる。		
	中学校や地域に対する広報活動を充実する。	SSH課と連携し、理数科独自の行事や活動内容、および実績を中学校訪問を通して伝える。 理数科研修や課題研究の内容、成果を理数科通信やパンフレット等を利用して広報する。		
	進学実績の向上を目指す。	SSH課と連携し、SS総合コミュニケーションで行う課題研究の質を高め、生徒の進路意識を高める。 難関理系大学・医科系学部を含む、難関大5名、国公立大学理系への進学30名以上を目指すために、1, 2, 3年の理数科で情報交換や連携を図る。		
人間文科コース	人間文科コース生徒の基礎学力の定着、応用力の向上を図り、コースの特性を活かしながら進路の実現をめざす。	各教科で習熟度別授業・少人数授業を展開し、基礎学力の向上を図る。またコース独自の授業を活用して文系科目の強化を図る。 課題研究でのグループ討議・論文への取り組みや海外研修での経験を活かし、推薦・AO入試に積極的チャレンジし、国公立大学10名以上の合格をめざす。		
	SGH事業との連携をよりすすめ、各セミナー・海外研修・課題研究の在り方・内容の充実を図る。	国際学生や留学経験のある卒業生との交流を通して広い視野を身につけさせ、また、自分の意見を主張できるようなプレゼンテーション能力を養う。 SGH事業と連携しながら課題研究等の充実を図り、生徒間において自己の意見をはっきりと述べる力を育成し、SGH事業の核となる取り組みを行う。		
	大学との連携や校外へのPR活動を活発に行い、コースのレベルアップに努める。	各セミナー・課題研究を通して、大学との連携を図り、生徒自らが考え、行動できる力を育成する。 人間文科コースの活動内容をまとめ、行事等を通じて校内においてもコースに対する理解を深める。		
SSH課	理数科目を中心とした独自のプログラム開発により、将来の科学技術系人材育成を目指す。	学校設定科目を積極的に活用して、理数科目に関する興味・関心を高め、高い学力を養成する。 校外研修や講演会を積極的に実施して、SSH事業の目標達成と全校体制で幅広い総合力を育成する。 大学や他の研究施設との連携を推進し、より独自性と発展性を高めた理数教育の実現を図る。		
	地域の科学教育に貢献するとともに、本校教育の魅力についての理解を広げる。	地域の小・中学生等を対象とした公開講座等を開催し、理数教育ネットワークの構築を図る。 HPや広報誌等で、SSHの取組を校外へ積極的に広報する。		
	科学英語に関する総合的な取組みを通して、国際的に通用する研究者の養成に努める。	学校設定科目や海外研修等を通して、国際的なコミュニケーション能力の育成を図る具体的な取組を行う。 ポスター発表やプレゼンテーションを通じて、英語による情報発信能力を身につけさせる。		
SGH課	課題研究推進体制の構築	学年と連携して現代社会探究及び課題研究Iの推進体制を構築する。 SSH課と協力して文系生徒・理系生徒双方に通じる課題研究プログラムを作る。		
	高大連携・地域連携ネットワーク作り	大学との連携を深め、課題研究の内容を充実させる。 自治体の協力および地域を巻き込んだ活動を展開する。		
	能力評価指標の作成	北九州市立大学地域創生学群と連携し、評価指標の検証を行う。 生徒の活動の観察及び生徒成果物の分析を通して、ルーブリックを作成する。		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度への主な課題
1 学 年	活気に満ちた規則正しい学校生活	安易な欠席・遅刻をなくし、年間出席皆勤145人以上を目指す。		
		元気な挨拶と時間厳守を励行する。		
		部活動加入率80%以上を目指す。		
	自ら学ぶ、共に学ぶ姿勢の育成	家庭学習の習慣化(自ら学ぶ)		
		課題研究を通して新たな学びを定着させる。(共に学ぶ姿勢の育成)		
		校外模試の早期分析し、活用する。		
よさに気づき、よさを育む	現代社会探究を通して社会を知り、自分を知り、学問を知り進路意識を高揚させる。			
	相互評価による高め合いを通して、相互理解を図り自他を尊重する精神を養う。			
2 学 年	基本的な生活習慣を確立させ、自立のための自律を可能とする力を育成する。	安易に欠席しない雰囲気づくりを行い、出席皆勤への挑戦を奨励する。		
		高校生としての適切な言葉遣いや、元気な日常の挨拶を徹底させる。		
		定期考査ごとに頭髪検査を実施し、校則を遵守する態度を育成する。		
	授業がすべて。1時間1時間の授業の中で必ず理解を深めさせ、進路表現に結びつく学力を形成させる。	「伸びる」のを待たず、「伸ばす」授業を必ず展開する。		
		さまざまな学びの場面を作り出し、主体的に学ぼうとする生徒集団を形成する。		
		面談や進路学習・校外活動を通じてそれぞれの生徒の適性を顕在化させ、具体的な進路目標を持たせる。		
部活動・生徒会活動・学校行事への積極的参加を推進する。	全員参加の学校行事に主体的に取り組ませ、学校や学年への帰属意識を高めさせる。			
	学校行事や部活動等を通じてリーダーシップやフォロワーシップを体得させ、理解させる。			
	来年度のリーダーを発掘し、来年度の各種学校行事に新たな風を起こせる人材を育成する。			
3 学 年	学校をリードする人材の育成	下級生の模範となる生活態度で学校生活を送らせる。		
		学校行事を通じて学校全体をリードするリーダーを育てる。		
		学年全体でリーダーをバックアップする意識を育てる。		
	自己実現につながる学力の向上	積極的に学習に取り組むための学習環境を整備する。		
		放課後課外、放課後学習、勉強合宿を通じて学習への意欲・意識を高める		
		基礎力・実践力を育成するための授業・学習指導の質を向上させる。		
全員が第一志望に合格し、難関大10名、国公立大学100名以上の合格者を実現するための指導	面談を効果的に使い生徒理解を行い、生徒に高い目標を設定させる。			
	進路講演会、「総合的な学習の時間」を利用し、進路実現へ向けた意識を高揚させる。			
	模試の検討・分析を行い授業や課外の講座に生かす。			